

ホーム名：グループホーム東神田の里					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に、ユニットの理念構築を行い掲示している。職員は、ユニット理念を通して、入居者が地域住民の一員として共に生き、自分らしく心豊かな暮らしができるよう、地域や家族との関りを重視し、それぞれと共有して支援するという意識の上、実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	将来、認知症高齢者の人口が増加することを見越し、近隣の子供たちが福祉への関心をもつことができるよう、法人全体で「親子で介護サーキット」の取り組みを行った。現状、地域住民と関わる頻度は少ないが、運営推進会議を通じて、自治会の事業計画やホームの行事計画の情報交換を行い、入居者と地域住民が繋がりを持てるよう意見交換の推進に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民に事業所を知っていたくために、地域の相談窓口とし交流の場を増やし、地域貢献ができるよう、地域包括支援センターを通じて、認知症カフェの開催を試験的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの実情を報告し、入居者が快適な暮らしができるよう話し合いを行い、サービス向上の促進へ努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議で、参加者の方へ認知症の方の在り方や、ケアや生活の実情を伝え理解を深めている。市の担当者については、先方の都合上、参加できていないケースが多いが、地域包括支援センターを通じて情報共有を行っている。会議内容は、後日関係者へ開示している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し、内部研修でも教育を行っている。日々のケアの中で、リーダーからスピーチロックやドラックロックの意味を説明し、コミュニケーションの取り方や、一次要因として薬を使用しない正しいケアの在り方を指導し、不適切な言動や身体拘束にならないケアの実践に取り組んでいる。		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置して、法人内の年間研修計画や外部研修からも、不適切なケアにより権利侵害にならないよう教育を受けている。軽微な不適切なケアを放置したり助長しないよう、ユニット内では更衣や入浴の際ボディチェックを行い、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、虐待防止に努めている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度を導入しているが、ユニット内で利用している方がいないので実践には至っていない。また、法人内の年間研修計画や外部研修で学ぶ機会を設けており、得た情報を職員間で共有するとともに、研修資料等をファイルし、職員がいつでも観覧できるよう、今後の支援に役立てるよう準備している。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前には、管理者やケアマネージャーが面談を行い、十分な説明を行っている。改定等の際は、書面等で報告を行い、不明な点は電話や面会時に説明を行い、理解・納得を図っている。</p>		
10	<p>6</p> <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が来訪された際や、電話での対応時、職員は家族の意見や要望に極力応じられるよう意見交換・情報共有を行っている。内容により、直接外部者や管理者へお話しいただき、得た情報を職員間で周知共有し、意見を運営に反映させている。事業所内でのバーチャルチームは構成できていないが、タイムリーに伝達するためにスマートホンでのSNSの利用を一部活用している。</p>		
11	<p>7</p> <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>日常業務での申し送り、記録や会議を通じて、意見情感を行い、運営に関する情報共有を行っている。伝えるという意味で、書くことの重要性を感じているが、タブレット等、バーチャルチームでの効率化を図れていない。</p>		
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の希望休日を入れ、家庭環境等の都合や要望を考慮し、極力ストレスのない勤務体制を整えている。また、職員個々が業務を自覚できるよう、内部研修での学習や資格支援制度の導入により、就業しながら知識や技術を学び、やりがいや向上心を養いながら給料のベースアップにも繋がる環境体制になるよう努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の年間研修計画に基づき、各ユニットリーダーがテーマに沿った内容を勉強し、OJTを実践している。また、リーダーは各職員が内外研修を受講するにあたり、受講頻度が偏らないようシフト調整を行い、皆が均等にトレーニングできるよう配慮している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営推進会議や親睦会で、地域包括等、同業者との交流を図っている。また、内部研修や外部研修から他施設や専門分野との接点を持ち、意見交換や情報交換を行い、サービスの質を向上させるよう努めている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用前のインタビューでは、話しやすい雰囲気を中心掛け、本人からの情報を出来るだけ細かに収集している。得た課題やニーズに対し、真摯に向き合い、寄り添うことで安心が得られるよう努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用前のインタビューでは、話しやすい雰囲気を中心掛け、家族からの情報を出来るだけ細かに収集している。得た課題やニーズに対し、真摯に向き合い、寄り添うことで安心が得られるよう努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用前のインタビューでは、本人にとってより良いサービスを提供できるよう、ご家族からこれまでの経緯等を細かく聞き、家族や本人の思いを受け入れ、今必要としているサービスを一緒に考え、提供できるサービスの提案を行っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者の状態を見極め、本人の意思に基づき、本人の好みや、今できることをできる限り自由に取り組んでいただいている。手作り食の日は、家庭的な雰囲気を作り、知恵を聞かせていただいたりと、本人を尊重しながら、共に生活している関係づくりに努めている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族には夏祭りや敬老会に参加していただく意義を伝え、本人との絆が途切れないよう努めている。また、面会時に、近況報告を都度行い、日々の状態を知っていただくことで、今必要なサービス等を職員と一緒に考え、共に本人を支えていく関係性を築けるように努めている。</p>		
20	<p>8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>知人や友人が面会に来られた際、いつでも気軽に来訪していただける風土づくりに心掛けている。また、趣味である吹奏楽等のコンサートや昔利用していた旅館へ外出していただけるよう、本人と家族の意向を尊重し、本人の状態に応じて、極力馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。</p>		
21	<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>レクリエーションや手作り食で利用者同士の関わり合いを大切にしている。利用者同士の関係を常に把握しながら、環境に影響が出ないよう座席の配置等の配慮に努めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスが終了してもこれまでと同様に、必要に応じた支援ができるよう記録を保管し、いつでも開示可能であるよう、相談に応じられるように努めている。また、外出先での接点もあり、近況を共有したり、できる限りの相談に応じている。同じ地域の住民として、必要可能な限り、これまでと変わらぬ関わりを保てるよう努めている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>共に暮らす中で、普段から入居者との関わりを意識し、一人ひとりと触れ合いながら希望、意向の把握に努めている。また、意思の疎通が困難な方は、これまで生きてきた背景から本人が何をしてほしいかを検証し、入居者独自の希望や意向を介護計画書に反映させて、職員間で共有している。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>一人ひとりの情報は、ご家族や本人から収集するが、家族からの聞き取りの際は、背景をすることが認知症ケアのサービス利用において必要不可欠なものであることを説明し、理解納得を得ている。結果、個人ファイルに生活のニーズを更新し、職員間で共有している。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>毎日、一人ひとりの状態を口頭や個人記録ノートにも記載している。必要であれば、業務ノートにも記入するが、一目で毎月の様子が把握できるよう、一括管理シートを活用し、全体の流れがわかるようにしている。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>毎日の会議でカンファレンスを実施し、モニタリングを行うが、日々、本人とご家族等の接点の中で望まれる意向を盛り込み、介護計画に連動、反映させている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の個人の様子をパソコンやノートに記録し、定例のケアカンファレンスでモニタリングを行いながら、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族の協働による外出や外食等、社会との関りや周囲との繋がりを持っていただく等、個別性、独自性を重視し、可能な限りホーム内で提供する以外の新規分野サービスの支援に取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>自治会の協力のもと学校行事や地域行事に参加していただく等、地域の一員であることの安心感や、周囲とのつながりを感じていただき、生きがいを養いながら安心安全で、心豊かな楽しい暮らしを提供できるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>母体である病院と提携している訪問歯科にて毎月定期的に利用者の往診を行っているが、専門分野での受診が必要な場合は、主治医を通じて適切な医療がスムーズに受けられるよう支援している。</p>		

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>毎週訪問看護による入居者の状態を管理をしているが、職員は一括管理シートやバイタルチェック表、水分チェック表の記録やケアの実践からの状態を踏まえ、看護師に情報提供を行い、入居者がより適切なケアを受けられるよう支援している。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には、ホームの職員が介護サマリーや面談にて情報提供や意見交換を行い、入居者がより適切なケアを受けられるよう支援している。また、入院経過中は、介護職員が定期的に面会へ行き、病院関係者から病状や退院時期についての情報を聞き取り、退院後のケアがスムーズに実践できるよう努めている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化については、運営推進会議を通じて地域への協力を依頼できるよう検討している。現状、終末期についての対応は不完全であるが、今後、本人や家族との話し合う機会を設け、母体の医療機関との連携をとり、今後の方針の策定に努めている。</p>		
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時の緊急マニュアルを職員の誰もが目につく場所に置き、内外研修を通じてAEDを確実に使えるように学習し、応急手当や初期対応の実践力を身に付けている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回の消防訓練を実施しており、災害時に迅速な対応ができるよう知識と技術を学んでいる。また、法人内に災害委員会を設置し、運営推進会議を通じて、自治会や市役所の方々と避難についての方法を話し合い、地域との協力体制を築いている。自治会からはホーム内の夜間職員の人員不足が懸念されており、他施設との協働も要されるが、隣接(同法人)のグループホームや特養との協働対策から進めている。</p>		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>入居者の性質に合わせたケアに心がけ、不当な差別や偏見が生じないように、常に入居者本位の意思を尊重し、安心した生活が送れるよう、人格の尊厳とプライバシーの保護に努めている。</p>		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>入居者に対して、普段から楽しく明るい環境づくりに努め、日常の声掛けやコミュニケーションを通じて、本人が抱えている思いや希望を、言葉や感情表現ができるよう関わっている。職員は表出した思いを受容し、ひとつひとつ確認しながら本人本位の想いを自己決定できるように努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ユニット内の状況を見極め、極力入居者一人ひとりの意向やペースを乱さないよう、入居者中心の生活に重きを置き、本人の希望にそった生活リズムで過ごせるよう支援している。例えば、就寝時間は職員の都合にならないよう、居室やフロアでテレビを観ていただいたり、本人がこうしたいという意味・価値を優先し、希望や要望にそった本人本位の生活を送れるよう支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>本人の意向のもと、馴染みのある整容品やボディーローション、髪留め等のケア・おしゃれ用品等を家族との協働で揃えていただいて、本人が、より快適に過ごせる日常支援に努めている。また、外出の際は、おしゃれ着を家族が持参される等、メリハリを与え、非日常による適度な刺激により、充実した日を過ごせるよう支援している。家族との協力が密にとれない場合は、本人が孤立しないよう、職員がサポートをし、既存の衣類やおしゃれ着等を一緒に選ぶ等、本人が納得いく身だしなみやおしゃれができるよう、支援している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員と一緒に食事が楽しめるように手作り食を月に2回予定しており、仕込み中心にできることの支援を行っている。パーソンフットに基づき共に生きるという中で、後片付けや食材の買い物と一緒にすることは価値のある支援だが、実践するには現状困難な為、できることを大切に、楽しむことのできる支援に努めている。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>バイタルチェック表と水分排泄チェック表を通じて、普段の食事と水分量を把握している。一人ひとりの状態に応じて、母体である病院の主治医や訪問看護と連携し、食べる量を調整したり、食事形態を変えて提供している。ミキサー食の方については提供時、献立をひとつひとつ説明し、おいしく食べていただけるよう支援をしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後に、一人ひとりその日の状態に応じた口腔内ケアを行っている。定期的な訪問歯科にて口腔内清掃や義歯のチェックを行い、毎回結果報告、アドバイスを受け口腔内管理に努めている。</p>		

43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>水分排泄チェック表で一人ひとりの排泄リズムを把握し、立位がとれる方はトイレ誘導を行う等、おむつを使わない自立支援に努めている。誘導前は本人の自尊心を損ねないような声掛けに配慮し、排泄に対して抵抗ないよう努めている。おむつフィッターへの提案については検討はできていない。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>毎日二回の体操の他、ご家族と相談し、ヤクルトや野菜ジュースを提供させていただき、腸内が健康に保てるよう努めている。それでも不十分な時は、主治医や訪問看護師に働きかけて予防に取り組んでいる。</p>	/	/
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴日が偏らないよう設定し、入居者の体調を管理している。入浴時はコミュニケーションを心がけ、入居者の状態を確認するとともに、気分よく過ごしていただけるよう、本人との時間を共有している。本人の気分がすぐれない時は、無理強いをせず、ゆっくりしていただくか、足湯でリラックスをしていただいている。</p>		

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの生活習慣、生活リズムを尊重した支援に努めている。例えば、夜間は眠たくなるまで、フロアで好きなテレビ番組や録画番組を観ていただいたり、職員と話をしたり、その時々状況に応じてながら、安心された中で気持ちよく眠れるよう支援している。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬情を個々の情報ファイルに綴じ、必要な時にいつでも確認できるようにしている。状態の変化により臨時変更がある場合は、口頭申し送りや一括管理シート等に記入し、用途や内容を理解し、服薬支援に努めている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>アセスメント等により一人ひとりの趣味嗜好や願い等を知り、本人がいきいきとした過ごしやすい環境づくりに努めている。</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>人員体制が整っている時は、散歩や買い物に出かけられるよう努めている。また、家族の協力により、馴染みの旅館へ外泊したり、身内のふれあい親睦を大切にしている。地域の人や同法人である隣接の施設との外出交流は日時調整が困難にあり実現できていないが、地域行事や法人行事である夏祭りや敬老会等を通じて交流を行っている。</p>		
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人がお金を持つと紛失する危険性があるのでユニットで管理をしているが、人員不足や事務業務等、ユニットリーダーのみの管理は困難になっている。家族へは、面会時に必要なものを揃えていただき協力を得ている。業務改善にむけ検討中である。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話を持参していただいたり、居室に固定電話を置く等、ワンタッチで通話ができ、親類と対話ができるよう、必要な方々の電話番号を登録し利用していただいている。また、暑中お見舞いや家族、お孫様等の手紙のやりとりを通じ、大切な人との繋がりを保てるよう支援している。</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間では、利用者が目で見えてわかるような表示をし、フロアや居室は冷暖房や加湿器を設置し、毎日を快適に過ごせるよう管理している。また、テレビには字幕を入れたり、映像で楽しむことができる音楽DVDを利用したりと、耳が聞こえない方や難聴の方にも楽しめるよう配慮している。居室には日めくりカレンダーを置き、お花や飾り付けをして居心地よく過ごせるような工夫をしている。フロアでは年間行事に合わせ飾り付けを行い、作業工程は入居者とコミュニケーションをとりながら、季節感ある空間になるよう努めている。</p>		

53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者同士が集う共用空間では、ゲームや手作り食、ユニット行事等に職員が介入し、コミュニケーションを図りながら、誰もが緊張感なく楽しい輪、明るい環境になるよう努めている。また、個としての自主性を尊重し、フロアや居室を自由に選択していただき、好きな場所での読書や趣味に取り組めるよう、独自のペースで、ストレスフリーな状態で、喜びを感じられる居場所づくりに努めている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には日めくりカレンダーや、外出時に撮った思い出の写真等を置き、馴染みのある家具や嗜好品等を揃えている。また、空気が乾燥すると調子を崩される方等には、本人と家族と話し合い、加湿器を置く等、その時々本人の状態や環境の変化に適応できる空間づくりに努めている。また、過度の環境の変化によりストレスにならないよう十分検討し、居心地よく過ごせるよう配慮している。</p>		
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>その日の利用者の状態にあわせて、その日できること、また、得意なことに取り組んでいただき、一人ひとりの独自性を活かした活動支援を行い、本人が自立した価値ある生活が送れるよう工夫している。フロア内には入居者が混乱せず、安全に移動できるように手摺を設置したり、物事を認識できるように用途に合わせた表示をしており、極力自立した生活が送れるように工夫している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない